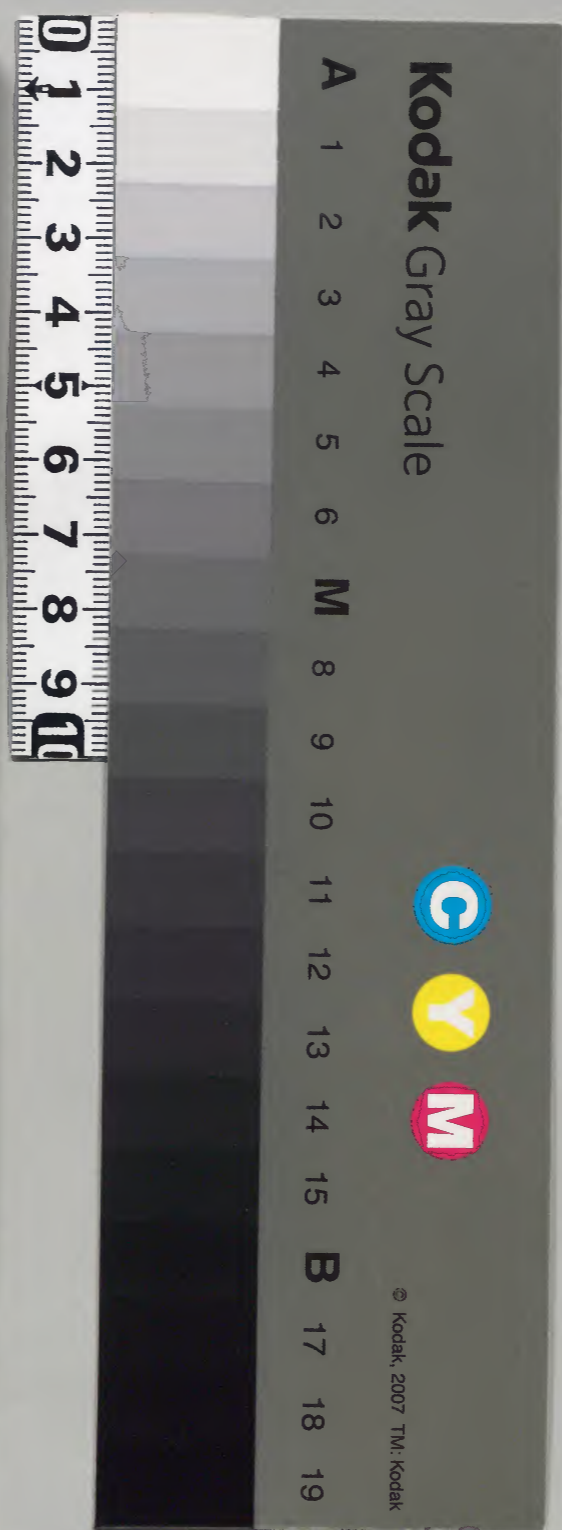


茶寮造要冊

和書門			
二七八五	八	六	九
號	函	架	冊

內閣文庫			
二七八五	九	一	二
號	冊	架	函
類			

內閣文庫	
番號	和 27815
冊數	9 (4)
函號	200 137



萬葉集第四選要抄

○一日社 端書の天皇の卜小皇の字及りて又ハかく
とハゆゆ告ハ終の借リ字長氣ハかけ〜くおとを
あり有不得勝ハ本のも〜か〜たり〜或人ありかて
かくし〜刻ハ少ふ穩

○神代從 初明し 寐宿難爾登の登の字と或人志
皇の一字ハ改りも例の僻れ改むとも安ゆじ

○淡海路乃 止 止ハいさや川のいさ〜補とけ〜けて
けのころ〜ハかく記りのけ〜とも安〜又あさふけ夕
けおもの〜長あれ登ハ日の〜夜ハ〜あお
るまを〜ひつ〜も〜ん〜新未いう〜死あ〜

明治十三年 購求

○珠衣乃五或人乞とありきぬし訓ハちりしとるしよ
けきありしとむといひ沈むも妻のちきさうくと沈む
りしと考たりぬし妻れらさうくと沈むめし何と
のいしぬしつとちきさうくと沈むといしを沈てあつハ
あきさうくと沈むんそち捨るといし守ゆると沈又ハ
甲のいしぬし夫婦のちかくあると沈男女のちかくあ
捨ゆるといしちきさうくと沈むんそち捨るといし妻の
ちきさうくと沈むふつとちきさうくと沈むといし依て
いしぬしやちつとあつと沈むといし依て
いしぬしと沈むといし 智沖も妻ゆると沈むといし
珠衣ハありきぬしとるしよ遠ハ沈むといし沈十六

の廿九のちきさうと衣之寶之子等とちりしとありきぬしよ
むとちりしと思ふありしと玉雨と瑠璃又波梨かとの
類ありしと瑠璃ハ青色玉紅婆利赤色ハ赤色のちり
紅婆利赤色赤陀ハ身神赤色小蓮華も赤色なり
ありしと白色黄色のちりしと管之珠とちりしとありしと
の所ちりしと書の名とちりしと追て尋け敷小か
ちりしと依てありきぬしとちりしと同く称するといし
さわくのちりしと廿三丁ハ安利伎奴乃佐惠佐惠し
有はちりしとちりしとちりしとちりしとちりしと
佐惠くといしとちりしとちりしとちりしとちりしと
けの及元しとちりしとちりしとちりしとちりしと

ヤナムニナニ
六アリキマア
リテノチニモ
トアリ或人ノ
説ハトラレヌコ
ト多し能考
ヘテ取捨スヘシ

小て又玉の冷きより多しし冷ハ字書小歎也又申氣
也長詠也といふハ歎ハあけき申氣ハ長大息長
詠も右のまゝあけきし日本紀小冷とさまよひ
とまじも老か見方のあけきあけきしとまじも
別にも色と人丸のあけき沈とまじもたあけきひ
の神もとりまじも妻のあけきとまじも沈とまじも
又た珠衣ハさあけきといふし料とまじもお遠子
○吾背子波^{十五} 此心のろ十六十一小も何し吾莫七國
ハあけきあけきとまじも既小りまじも我まじ
ハハあけきとまじも下小も例あり

○臣女乃^{十六} 代ハ志處女わてまはの友女ととり或人

音旗ハ枕ヨトハ
ナリ此集ニ三知
アリオニニナ
ニ此知オナニ
ニナナナリ何
レ七青葉立カ
ツラキ青葉立
忍坂山ナリ翁
辞考ニ白旗
青揚ナト改
クルハ不考ナリ

ハ臣女ハ姫の字小てまをやめありしりかさも何りり子
まじも改むのろく人の言一既小ハ信一
青旗と青揚と改より青揚ハよく夢けれと持
あけきハいしし辨沖ハあけきの本小まらひてしりか
る青き旗とまじもやあけきハあけきつけりといふ稲
日都麻ハ下南海浦道し杉代ハ多し
○白妙乃ハ紐解 袖ハあけきとまじも月日殺て
能あけきとまじもあけきとまじも或人又袖と紐と改
まじも解とまじもあけきとまじもあけきとまじも
まじも袖とまじも更而といふハ能あけきハ紐解袖か
ハトの心まじもあけきとまじも更の字ハ改也

小島ぬとよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ
 よろくとあまのりし雨もあまのりし雨つこも
 君も雨とよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ
 きこひひとふさやそ君とくさーんともあまのり
 右ハ雨乍見とつしむりていひさし若雨と見く
 少し見るとあしハ雨もあまのりし雨と君見く雨
 ぬふれと雨とよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ
 めもれ又今晚の今の字合の字あしハ雨と見くしむ君
 あしハ雨と君小島ぬとよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ
 浪解と待ぬし何れ小島ぬとよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ
 小ハ河とよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめあしは今日天氣のよれ小島ぬとよめ

○庭立麻手十八或人手と手と改るハ只路一ノ中十ハ
 十九丁小も爾波尔多都安佐提古天須麻と有是ハ志
 き志のよといし人料し志ハ重々及々あしと志きと
 よしそししあハ明し

○魚被奈胡也我下丹十九古事記上三十三丁小牟スレ天須
 麻ニ亦コ古夜賀斯カ多尔タとあり古事記の頭書小けつと書有
 たりかうとびーふは改とすあはし本の訓ハ誤し
 ○赤駒之平織結師ハ織ハ素也むとひてしとよめ
 へきを馬のそふしぬやふさどりのおとと後ふし
 ○梓弓凡引同夜のよとよの法の音のをとくゆゆ小念
 てかのよゆとのよと或人御事と御事と改りハ理

少りも改め僻ふ小信し——御幸もて遠く
しかり上の御方の心いある時よもせ給ふとハ志し福と
むせひて——いもつらうたうひもか——の志もも
御幸ハせうせ給ふ神し知りなせたまふ心こと
ハくたうひもか——とあせ行ふやくよ少りも
小御幸のふくまきくありとも御幸の巧ハ何うし
きのんめし

○打日指ニ志悲と解沖の憐の心よし源倉右大臣
のけりかあ——もの心よ叙此いふもつハま仕ふやま
ハく——留しハよき——恐あハこひのまかしあてま
悲ハ十世のふ小志悲とよこしと物證のいとかあ——かし

りといふ同く我いとあき——く思ふ妹とといふ心し
○難波方ニ名凝ハ餘波の心少く塩干ハ大浪ハ神
と余波ハあるとかえりといふうのふりあくまをハ残
るまもあくあくまを人ハうのふ我ハまも——まといあ
源氏小惟光の女々夕霧の文やうらると花中してこ
て形もあく惟光のあて大さ小いうのふ夕霧の女とき
てともこひをいりかくまをともあまといふのふり
つらまどかえりかくまをとしをいりともえりとい
心ハなうらあくまといふ

○敷細乃一不相念者と或人あはぬあハと訓ハ考く
たうぬしあひハあてう——あもぬあハとよまて

○筑紫船五は筑紫より舟のふとのおとるに
久しく別れ居る方小君の心のあはれひたると見
むとおもふよかかめてさう悲しくおもわさし

○幸人衣染七去七或人幸人としき奇人改むる人
さるに理ゆふ多れかかへて人も遠き改むるをす
呉阿のとりよとく紅も呉の國をさるるに改むる

○草香江八河内宮の地名に改むるに此下四十七丁
もあり代ふ多しとしき改むるに改むるに改むる
改むるに改むる

○奉見而九不更者かかへて改むるに改むるに改むる

オホヨソ下
へ付テ凡ソ
浦吹風ノ止
時ナキカ知
常ニ思トシ
テモ多奈和
丹ヲオホ繩
ト云ハウトレ

ハあはれかりぬふとし小をきと改むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる

○吾毛念人毛莫志三多奈和丹と解むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる
改むるに改むるに改むるに改むるに改むるに改むる

源氏ありふいむとてうけをとりて思む作ると
いふにめづりゆふし及その念の字ハ令の誤あり
俳個ハやとひともたちもたりともたもとわり
ともよむ何れふもよむ

○吾手本まうんとゆいんまうとてハ熱水定白髪

生ニ有オヒ此方ハ明多しと次の方の源小用何れハ記

○白髪生流三求而將行求ハ定の字の誤じ上の

のからい小志川とてうけて志川にてゆくとよめり

とるにハ定ハ沈の借リ字じ又上の方ハ沈地と

ハ志川めりて正字を心ハかきと志川めりゆんじ

とるし沈も志川まう心じこハ浮沈の沈あらん

こハ上も此方もかきふ小志川とてゆくとよめり

こハ定字志川とてよむ字かり夜かけ人志川ま

るといハ時定の字と書りて志川めりとも同じ

とて心と志川めりも水小物と投して志川めりさなり

からいよとゆふたにともふりてかきとやめての

心ありとかくはくくいん假名承さるめりて

何れハ求ハ定の誤なりととる

○宇波弊無六字を或人くかためて無上と之りけ

ハしと信せし輩もあらんといふも無上と

いふ最上々小て是より上なりといふも少経文

かといふ無上菩提といふ無有上といひて最上々

の善ぶし小のこいふいと無上と云ふは、小の善ぶしを
 けしきと上とけしきとけしきと上との貞女と云ふは
 あつたときき事と無上といふん理りか、無
 上のけしき人々の悪事とけしきとけしきと
 無上といふいと未だ俗小戯れて上もふれ悪人な
 りと云ふる小いふ詞と云へたりと云ふれと無
 上と思ひ無上のけしき人とは、あつたん御沖ハ源氏
 のけしきや、けしきのとけしきと、あつたんけしきと、け
 しのけしきと、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、
 心をけしきと、あつたんけしきと、けしきと、けしきと、
 けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、

へふれりて不敵又ハ不堪忍の人といふん、あつたん四五丁小
 も得羽重無と云ふ、けしきと無上と云へて、喩ていふ、人間の
 上々天子の御女又ハ、人無上と云へて、けしきと、けしきと、
 けしきと、無上と云へて、けしきと、けしきと、けしきと、
 ハ家路ハ夢路、小ても、けしきと、けしきと、けしきと、
 ○幾許七 片去ハ御沖、日不片去、小て不字、産、けしきと、
 けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、
 のま、けしきと、佐良受提、い、けしきと、けしきと、
 ○草枕客者七 雖率有、と、代、けしきと、けしきと、
 有の字、あ、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、
 ひ、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、けしきと、
 伊勢物

波のぬてうー女もかくしりハ變てうーしあ
のうろくらけのうらのふのうーちのれ旅のうきめと
見せーしそひいぬ事わしきふんじ

○直一夜^三心遮と契沖ハ不字落てうろハなき
とーかくハ遮遣^二心とふくさむい^一て中十二十三丁小
う川せこの岸のうーハちか^二は^一きけんハな
きぬとりふちを川りい^二山も遮遣ハ思のあ^一う
とやう^二川^一のう^二ふてかく^一は^二佛家小妄想を
ちやらん^二と^一り^二ふ^一と多^二い^一と^二或人^一う^二さ^一き
と^二く^一ハ考^二ふ^一せぬと^二或^一ハ^二遮ハ蔽也閉也蓋也
と^二阿^一ハ心^二ふ^一う^二と^一れ心^二ち^一ら^二ゆ^一と^二又^一と^二り^一て本

のまもも^二く^一へ^二き^一中十二丁合^二は^一契沖も
○波之家也思^三此^二も^一大方愛の字の心あ^二し^一と
の^二け^一や^二愛の字と^一ハ^二少^一ハ^二や^一り^二け^一う^二ら^一
を^二け^一や^二ら^一も^二り^一但愛^二ら^一け^二近^一き^二や^一も
井の^二思^一と^二り^一ふ^二又^一ハ^二可^一憐^二か^一と^二も^一け^二や^一し
い^二ふ^一や^二あ^一し^二む^一君^二い^一ひ^二又^一此^二翁^一白頭真可憐^二か^一し
さ^二よ^一憐の字と^二し^一け^二や^一し^二い^一ふ^二と^一あ^二ら^一ま^二う^一せ
て愛の^二う^一ら^二き^一又^二可^一愛^二の^一か^二あ^一ひ^二と^一ハ^二少^一心^二か^一ら^二有
あ^二か^一く^二ハ^一い^二か^一し

○絶常云者^三隔付經事者^二と^一契沖^二ハ^一不^二字^一落^二て^一う^二ら^一
か^二と^一せ^二り^一是^二ハ^一次上の^二の^一ま^二ら^一う^二き^一里^二と^一せ^二ら^一井^二の^一や^二と

川とあり 痛の字阿をとむハ阿をかる一子
 一の阿ふあて古語拾遺のいと切あ。時あをとりあを
 ハ痛の字とありハいひぬ流の川といふさふあをせといひ
 けいりてしとてさくしけるハ怨恨と阿。あをさハ
 左阿て別もああ。故小世間の女あハ足痛川と
 もあ。進歩し中とありあ。人次の二首も別
 る。あをさも百妙乃袖わくく日とととさ
 あハは終別りてとく。女郎と或人郎女とさ
 けいりてしとてさくしけるハ怨恨と阿。あをさハ
 ○吾妹兒尔先ハ前後せりあ。の心ハ系よとせしり
 まる。乱絶り。あハは終車小うけて系と合

乱在の在ハ有の字あ
 懸而縁與ハ系とより合ととをけうけてあ
 人ととむへき。あうけてととむ。アと代ハ
 系とと縁のわらんと。あハは終車ハ和名抄よ
 る。あき所好の随

○不相見而好去哉 契沖ハ去ハ在の係り。日本紀ハ
 好在とさきく之り。とむと川ハ在の字有字とく
 とむ。ハ日本紀所々あり。好在り。ていう。さき
 く。あしや。とむ。いふ。とく。ま。や。とむ。ハ理あ。とむ。
 北契沖ととむ。とむ。とむ。や。或人過去哉。と好と。過小
 改ハ。とむ。とむ。好在り。て。或ハ。又。好去。好去

と云ふもあはれは女のまゝにうていふよけくやと云ふ
とも遠よるを——む好去好来ハ山上億良のこの詞も
あはれと旅あしむともさきく日日とあかりとすやの
心あはれ遠よるを——

○玉主尔 孛勝且と或人倦乍と改てらひつてもと云あ
りさしと改ふ小津掬もかく倦の字と云ひと云ひや
いふやと云ふ—— 倦ハ字書小懈也疲也
勞也とありしむと云ひとハ少遠よるを—— 倦の字の意
あはれけあ小かまはすけあハ郎女のむせめと渡河誓
小さけけてもつともいふやと云へ倦と云ひと云ひ
と云ふハ—— 中九、三十三、五十七、丁ハ云ひ人など惑

人とあり倦の字の云ふ小と云ひと刻ハ異言ありと云ふ

○相見者 孛手曾呂ハ辨沖おととして鈍の字の心は解
りり日本紀小ころねをけりといふを五情無主と書す
鈍多の心は同一—— 亦示於曾能風流士と云ふのこや
いと云ふ浦子の子のあ小かきやけきこといふも鈍多のこ
し鈍又と云ひいれといひ鈍刀と云ふまがふをといふも
同一—— 鈍の心小まの理やいれとも云はるる
鈍ハ於曾あてと云ふと假名送くりさしと云ふを或人
ハ虚言といふと云ふと虚言ハ云ふと云ふも云ふ
の手曾呂小あはれハ虚の一字ハ手ハるる色をせり
と云ふと云ふと云ふと云ふと一既ハ信

○石上零十方一言義之二とく一小ちきり一し一む
ハ理小何一し一き一此の中三三十四一の一小一り一し一し一と
辨沖ハ本の一説一り一義一と言一ふ一結義一も一定義一も一同
言一信義一と一義一ハ一ち一き一り一し一む一ハ一理一小一あ一る一也一或一人
義一の一字一と一越一し一改一て一六一帖一小一い一ひ一り一と一の一り一と一何一も
小一合一小一同一と一六一帖一小一遠一人一と一多一し一り一し一む一い一ひ一て一し一と
も一た一ひ一前一の一結一義一之一等一小一習一ひ一て一考一ふ一も一せ一ん一と一訓
を一改一て一い一ひ一て一し一む一い一ひ一り一と一考一ふ一た一ら一ぬ
智一と一も一て一む一し一り一古一書一と一改一ふ一も一り一し一む一
○倭文手纏三冠一詳一考一小一之一壽一持一と一身一持一と一改一ふ一也
理一中一ハ一此一と一壽一の一字一小一て一も一遠一ふ一と一考一ふ一ハ一さ一て一も一あり一と

一 幾許ハ一た一も一い一く一も一も一と一ひ一り一
○真王付三此一方一の一訓一ハ一本一の一考一ふ一て一し一り一或一人一言一齒一と
こ一の一ハ一と一よ一む一ハ一例一の一改一も一く一せ一し一
○娘子部四詞一花一勝一と一考一ふ一も一と一む一人一あ一れ一も
ハ一川一と一と一り一カ一川一と一も一と一り一け一と一と一り一
○直相而一同一此一方一ハ一正一と一相一て一と一考一ふ一も一余一小一向一小一無一ハ一や一め
あ一ら一む一と一して一ハ一や一ま一ね一と一よ一め一れ一辨一沖一ハ一た一ら一ぬ一と一り一
小一て一ハ一余一小一同一し一き一無一ハ一や一ま一ね一と一り一お一し一て一同一
○人事繁哉四此一方一ハ一六一帖一并一日一本一紀一が一と一け一て一委一く
と一り一と一考一ふ一者一ハ一二一鞘一と一鞘一一一川一小一て一か一い一と一り一と一
川一と一考一ふ一け一の一や一り一と一して一中一と一考一ふ一も一余一小一考一ふ一と

○波都々々 六代小ニ氏ゆか申し上後の委ふまゝの何れ
の目々余所ふりしもいんといふをうしとてし
しりく小見く人なきもけし

○持繩之坪 永と求よ何やまりたり 辨沖ハ此方の社と
り今眼と有て入るし之くふいと長り心と有てい
いと志けくあふとあくとも長くいきんとと祈りひてた
へも見人とおし余れ我ハ一日不見如三歳待り小れハ
人のやう小ゆくとおおハれとと名よ解せりさしあ
るまぬ又ハ君らためちりしりし命さくさうく
もりの心くおや

○思遣爲便乃 目片境ハ片境ふりし一代小委

○都禮毛無 八代持獨の草書の誤惑ハいりくもど
惑小改も説ハいりくもど

○文夫跡 九代三禮ハ龜の字や川をとも

○村肝之 同しきもハ辨沖ハ心府り一無量心識と
さくまハいりの多きと云或人ハむきまのこてと
くとり詞とくと何れは是あんいしむお給小たく
り又と有ていりしりし雲うしくとしやもくさ
通小ハむきまの山もむりりよるむきまの蠅
ともさきととくむきまハ心心のこくハむりり
よのうとくくと云ハけりし右云くとむりり
よのうとくハ心ハかきりし日本紀ハ心府とらうと

いふもあつてもいふかゝる神のまゝとてつけてもあつても
も小川は千川の石と七川もいふかゝる神のまゝとてつけても
いともねんは解又一系は千川の石と七川もいふかゝる
たうひよこくたうもかくたうもかくたうもかくたうも
まゝとていふ元と枕とていふかゝる神のまゝとてつけても
とあつてもいふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
山もいふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
二丁半留鳥といふ牛と川といふかゝる神のまゝとてつけても
こゝろとていふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
いふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
いふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
いふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の



の石と七川もいふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
かゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
怪下といふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
精神心神のたまひいひし即常一主宰の心し分三十五三丁
小心神と書てたまひいひし即常一主宰の心し分三十五三丁
諸ハ緒といふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
しやあつてもいふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の
伏の誤れ伏はまといひとていふかゝる神のまゝとてつけても
もてし居着は千川の石と七川もいふかゝる神のまゝとて
とたまひいひし即常一主宰の心し分三十五三丁
まゝとていふかゝる神のまゝとてつけてもいふかゝる神の

◎事不問^七此方次の方々^八なり知れぬ^九ふ^{一〇}て弊沖も
 け^{一一}く^{一二}し^{一三}と^{一四}なり私^{一五}思^{一六}何^{一七}の^{一八}世^{一九}に^{二〇}た^{二一}と^{二二}ふ^{二三}も^{二四}何
 良^{二五}祿^{二六}と^{二七}昔^{二八}を^{二九}り^{三〇}し^{三一}け^{三二}り^{三三}き^{三四}と^{三五}ふ^{三六}た^{三七}と^{三八}怪^{三九}さ^{四〇}病^{四一}を
 重^{四二}き^{四三}薬^{四四}と^{四五}用^{四六}か^{四七}く^{四八}泳^{四九}さ^{五〇}ん^{五一}あ^{五二}ん^{五三}と^{五四}思^{五五}ふ^{五六}わ^{五七}け^{五八}り^{五九}
 き^{六〇}や^{六一}り^{六二}か^{六三}り^{六四}い^{六五}ら^{六六}あ^{六七}ん^{六八}上^{六九}の^{七〇}方^{七一}も^{七二}り^{七三}け^{七四}り^{七五}と^{七六}し^{七七}く^{七八}
 方^{七九}あ^{八〇}り^{八一}い^{八二}も^{八三}ま^{八四}ん^{八五}あ^{八六}て^{八七}此^{八八}方^{八九}ハ^{九〇}花^{九一}の^{九二}い^{九三}ふ^{九四}て^{九五}実^{九六}あ^{九七}り^{九八}ぬ^{九九}も
 と^{一〇〇}何^{一〇一}あ^{一〇二}り^{一〇三}て^{一〇四}とも^{一〇五}の^{一〇六}花^{一〇七}の^{一〇八}い^{一〇九}ふ^{一一〇}て^{一一一}み^{一一二}ふ^{一一三}あ^{一一四}り^{一一五}ぬ^{一一六}と^{一一七}し^{一一八}い^{一一九}ふ^{一二〇}を^{一二一}あ
 し^{一二二}さ^{一二三}井^{一二四}等^{一二五}小^{一二六}い^{一二七}せ^{一二八}て^{一二九}い^{一三〇}さ^{一三一}じ^{一三二}り^{一三三}と^{一三四}い^{一三五}ふ^{一三六}あり^{一三七}ふ^{一三八}と^{一三九}じ^{一四〇}を
 ぬ^{一四一}と^{一四二}い^{一四三}ひ^{一四四}か^{一四五}う^{一四六}次^{一四七}の^{一四八}方^{一四九}亦^{一五〇}百^{一五一}千^{一五二}遍^{一五三}と^{一五四}あ^{一五五}り^{一五六}と^{一五七}く^{一五八}とも^{一五九}と^{一六〇}あ
 り^{一六一}し^{一六二}く^{一六三}祿^{一六四}の^{一六五}い^{一六六}ふ^{一六七}て^{一六八}し^{一六九}我^{一七〇}ハ^{一七一}た^{一七二}の^{一七三}す^{一七四}を^{一七五}い^{一七六}ふ^{一七七}此^{一七八}方^{一七九}の^{一八〇}後
 と^{一八一}あ^{一八二}り^{一八三}言^{一八四}の^{一八五}い^{一八六}ふ^{一八七}て^{一八八}い^{一八九}ふ^{一九〇}ぬ^{一九一}と^{一九二}ふ^{一九三}あ^{一九四}り^{一九五}む^{一九六}け^{一九七}ら^{一九八}ゆ^{一九九}

い^{二〇〇}ふ^{二〇一}と^{二〇二}と^{二〇三}せ^{二〇四}し^{二〇五}を^{二〇六}あ^{二〇七}け^{二〇八}け^{二〇九}交^{二一〇}定^{二一一}實^{二一二}の^{二一三}あ^{二一四}り^{二一五}と^{二一六}思^{二一七}ふ^{二一八}小^{二一九}い^{二二〇}と^{二二一}ま
 の^{二二二}い^{二二三}ふ^{二二四}て^{二二五}実^{二二六}の^{二二七}あ^{二二八}り^{二二九}ぬ^{二三〇}ハ^{二三一}あ^{二三二}り^{二三三}と^{二三四}い^{二三五}ふ^{二三六}て^{二三七}あ^{二三八}り^{二三九}ぬ^{二四〇}を^{二四一}何^{二四二}さ^{二四三}む^{二四四}く
 る^{二四五}し^{二四六}ハ^{二四七}事^{二四八}不^{二四九}問^{二五〇}本^{二五一}止^{二五二}り^{二五三}何^{二五四}さ^{二五五}あ^{二五六}等^{二五七}ハ^{二五八}あ^{二五九}さ^{二六〇}む^{二六一}け^{二六二}ハ^{二六三}人^{二六四}間^{二六五}の
 何^{二六六}さ^{二六七}じ^{二六八}く^{二六九}ハ^{二七〇}道^{二七一}理^{二七二}あ^{二七三}り^{二七四}い^{二七五}ふ^{二七六}と^{二七七}か^{二七八}く^{二七九}た^{二八〇}わ^{二八一}る^{二八二}を^{二八三}何^{二八四}さ^{二八五}り^{二八六}次^{二八七}の^{二八八}方^{二八九}亦
 と^{二九〇}し^{二九一}も^{二九二}の^{二九三}花^{二九四}の^{二九五}い^{二九六}ふ^{二九七}ハ^{二九八}我^{二九九}ハ^{三〇〇}不^{三〇一}信^{三〇二}と^{三〇三}い^{三〇四}ふ^{三〇五}り^{三〇六}祿^{三〇七}の^{三〇八}い^{三〇九}ふ^{三一〇}て^{三一〇}實^{三一〇}の^{三一〇}あ^{三一〇}
 る^{三一〇}も^{三一〇}志^{三一〇}く^{三一〇}祿^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}さ^{三一〇}あ^{三一〇}等^{三一〇}ハ^{三一〇}花^{三一〇}の^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}て^{三一〇}實^{三一〇}の^{三一〇}あ^{三一〇}
 ぬ^{三一〇}も^{三一〇}い^{三一〇}じ^{三一〇}紙^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}く^{三一〇}く^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}と^{三一〇}祿^{三一〇}ハ^{三一〇}本^{三一〇}と^{三一〇}も^{三一〇}又^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}ん
 か^{三一〇}り^{三一〇}と^{三一〇}祿^{三一〇}ハ^{三一〇}本^{三一〇}と^{三一〇}も^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}と^{三一〇}ま^{三一〇}け^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}ハ^{三一〇}あ^{三一〇}り
 せ^{三一〇}ハ^{三一〇}山^{三一〇}の^{三一〇}祿^{三一〇}の^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}と^{三一〇}い^{三一〇}ふ^{三一〇}も^{三一〇}あ^{三一〇}り^{三一〇}追^{三一〇}て
 う^{三一〇}聲^{三一〇}

◎百千遍^七此方小練乃言羽志といひ次上ハ唯木の上の

〇黒樹取ハ辛勤知氣登代ハ此とめテアキミコトアリ
 或人ハ此をけけと知和と改ハ心ハよけれとかんまハ
 〇野干玉能ハ辛令還ハ此とめテアキミコトアリ
 教遣使令の字ハ余令此の字也

〇情ハ十一終代ハ此のうろくくと合情カシハ合の
 字のくじの物ハ此とけり

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

萬葉集第五選要抄

此卷小文章也又詞書等多一解冲委く治るんハ
く小いイイ守

○大王能^五期良農の期ハ斯じかくの^一の^一の^一誤字いと
多^一ル^一と^一た^一ち^一す^一あ^一り^一知^一ル^一と^一あ^一れ^一ハ^一物^一一^一て^一い^一し^一す^一許
夜斯努禮ハ展也こ^一し^一し^一ら^一か^一し^一聖德太子の御^一あ
小^一や^一せ^一も^一旅^一人^一あ^一れ^一し^一い^一ち^一ふ^一か^一あ^一一^一聖冲委^一せ^一り^一あ^一な
良波迦多知波阿良牟牟解冲ハ注^一ヒ^一或人ハ知^一を^一利
小改め^一せ^一か^一り^一ハ^一あ^一ん^一ど^一と^一し^一か^一り^一か^一く^一さ^一び^一もの
何^一ん^一と^一し^一り^一ら^一ら^一ハ^一少^一い^一れ^一も^一知^一を^一利^一よ^一改^一る^一も
例^一の^一か^一り^一と^一ハ^一我^一も^一小^一改^一る^一人^一の^一僻^一な^一小^一信^一と^一る

六十一
日本書紀

あはれと谷くるといひうゝ——愚素ゆハ若ハ虹のともや
延喜式の谷蟻能 極度極塩味能 留限といひも谷
蝦蟇ふて谷くるといふ然ハ小虹ハ俗ハ蝦蟇の息といふ
抄ハやいふや志く秘と虹と蝦蟇の息といふ用
小躰とよひて虹とくともいふへきハ虹ハ谷後リ海
濱りあやしいふとありて雨のあともくともいふ
あり若又延喜式の蟻ハ蝮蛇の字の誤也 蝮蛇の中
あはれハ何ハ虹也日與雨交りて虹ハあはれともいふ
又映日光ともわりひたくとの息とせハ右ハ小くく谷
くハ用ハ神と名付て谷蝦蟇即谷濱りの虹ふて谷く
あはれハ蝮蛇の字ありハ言と侍寸やうて虹ハ乾闥

婆城ハ蛤の息ともいハ八喻の随ふてはアもあはれとく
小用あはれハいも寸ふもやく小ハ虹と蝦蟇の息と云ハ
從抄とくくも又ハ谷くハ霧あはれきハ景行紀十九
丁小山神之興雲零水峯霧谷瞳無復可行之路とあり
此霧谷瞳のくくくと畧——谷霧瞳と谷くくも
いふハあきりハくくもきものあはれ谷きりや谷くくも
あはれも用と躰ハ名付ハ何——さくハ谷くハ霧の
ともあはれ後人の考あり——
○世間能ハ毛毛久佐尔勢米余利伎多流解冲ハ世
間の用事と記述さすもくくもたり年月のともやく
あはれハ小志くくひ移くの幸苦もともいふあり——

令知古良等余ハ途の字にてとちらうと佐那周ハ
 さとじし意余斯ハ老也解冲う及あの等伎波奈周
 の下都称の二字落うるといふ
 ○可既麻久波^三武氣多比良宜ハ平の字とひけし
 久斯美多麻
 ハ奇玉靈玉めを石のともといふ
 ○余能奈可波古飛斯宜或人ハ宜と企小改ひしと宜
 小て遠くともかゝ委ハ解冲とさうくし此あハせの中
 ハこひりき小我とさハ愛さる人もかりし梅のむとあり
 て人小めさるんとし志惠夜の志とよく有てあや
 とさるむく有て志あやとよむハ何れもさう

或人自ラ古今
 ノ事ヲ心ツセテ
 ト云ヒテハオ
 カナクヨラヨレ
 ト云リ

○鳥梅能波奈^{十七}麻我比ハ紛々續給又亂しかゝりけ
 ハ方小て春く小ありてとらうと片向あてもう
 ○波流楊那宜 同奈ハ行又ハ有信志ハうくしといひ
 又極しといふ或人極しといふと破さるハ心のせまうさ
 花酒小梅のけえ極しといふくしういふともあり
 ハ誰ハとハハサリ花のちりきて盃ふるうと極さう
 くしといふくさうやうやあのかと能く考ハ極しとい
 かさるくといふところをさういふ
 ○和我佐可理^{十八}負外ハ心承の前の教のかうといふと
 此二首ハ心同くサとものなり有て二首とんて解卿
 と男ハあし解冲ハ迷懐おて都とらうとも又をさく

尾小湊より等計自母能先を解沖ハ計ハ許の湊小
 て床しものまじりて上ふくたなりとをとりしき
 と床の事としか又床しものいふきやうを床
 しものいしものまじりて床小かまひし
 して寺師自母の湊の諸ハかやうかといふ
 川内庵のやういふか一計と作らるるあはれ
 もあつた又ハ計ハ斯の字をいふも床しものあはれ
 してものいふかゆかぬ小しものいふかのいぬしもの
 してものいふかゆかぬ小しものいふかのいぬしもの
 も猪ノ楮とよむといふ考ふといひしものいふか
 ○風雜雨布流欲乃_七監とわいしものいふか
 解沖

委之といふはたつたゆかぬ之可夫可比公志ハ
 鼻毗之ハをいふひもをていふをひしくとあはれ
 説ハゆかぬをいふと改り人あはれと本のまじ
 してゆかぬ大初ハ代の流りし五十戸良を或人ハ
 といふ解沖ハいしものいふかゆかぬといふ
 或人の流りしゆかぬの富をいふ人のいふかゆかぬ
 といふかゆかぬをいふかゆかぬといふかゆかぬ
 やうをいふかゆかぬの流りし四人の善所の流り
 といふかゆかぬをいふかゆかぬといふかゆかぬ
 といふかゆかぬをいふかゆかぬといふかゆかぬ
 短きゆかぬをいふかゆかぬといふかゆかぬ

阿庭可遠志
トスレハ墨繩ノ
コトナハ吟ハシ
問違カレシ本
説トナル墨繩
ハ物ヲ真直ニ
スルカ作用ナシ
ハモノナカハスバカ
ナハス本説也
毛吟ハ真直ニ
ナレニ本説ハモ
チカヘレニテ吟
ト本説ト違フ
思ヒ或人ノ考
ノ不足ヲ知ル
ハレニテカヘレハ
墨繩ノ作用
アラス

枝あるふより年貢の元ふあははるくとしめあや
○神代欲理ニ伊都久志吉ハ辨沖ハ辨の心といふ
ハ影の字もソハくしとしむゆれあそもつてくし宇志
播言ハ古事記の大己貴の條小かゝるとし主領と
いふふは説ありうてあハ守護のともみゆ
古事記ハ大己貴も天下のまじりひかめあふとゆ
ゆれまじハ主し天下のまじり邪神とてひ
と墨繩とてくし阿庭可遠志辨沖ハ何てかひ
とて或人ハ問違可遠志と改めたりとくしと
ハこさうく能も考くは海を改めしとハ墨繩
とてくしあふとて直小順風ハ帆と改めてゆ

アテカラシト云
ハ墨ナハノイニテ
喻ナリモチカヘ
シハ墨ナハノ作
用ニアラ子ハ本
説ナリ墨繩真
直ヲ用トス和名
抄ニ涅槃経ノ
文ヲ引テ端直
不曲猶墨

か小ハとちくしハかハ寸ノ智可能岬ナリかし
て多太泊尔としハ直直といハあかりとちくし
れてく直小ハ何とて墨繩の念ふハ直直くと
いふもあらしとてくしとて思ふくし士ニテテ小有
○靈刻内限者ニテたす記ハ辨沖ハ異事トシ
病遠等加互と辨沖ハ病とてくしとてあり上の言
ハ念ふハくしとてくしとて寸本のまじりも
ゆれと吟よかるとて許等々ハ辨沖ハ異事トシ
いとくあふとて強しとて外ノ事ハハ抄拾
も死あんとあふとてくしとて今とてまじりハ吟の
何やうりし吟ハ日本紀ハさうとてひとて死波不

不
大
二
三
四
五
六
七
八
九
十

知新沖の隔生即志家とくもこれすもふハ何人
〜私ハ許等々ハかくの〜死あ
〜おれ〜子女の父〜何にか〜
あハ〜子女の父〜何にか〜
ハ〜おれ〜又憶良の〜
捨て死なす身も〜
父を〜
○富人能ハ〜又多志ハ廣し絶絶の標
○世人之貴慕〜夕星ハ〜
愛人ハ〜横風乃爾〜此處誤あり
新沖も十字屋字新又も何〜

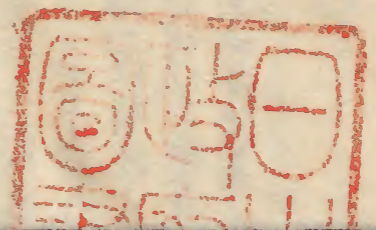


と〜りま〜小説〜
文〜
與余等の字屋布敷ハ〜
尔母布敷布敷可尔覆來禮婆〜
た〜
〜覆ハ倒也〜
如良受毛ハ新沖ハ神の神意ハ〜
阿射里ハあせり〜都久保里ハ形の〜
死〜姿〜又布敷〜

可爾ハ何文也

卷三

十



○和可家禮婆末比ハ幣也之多数ハ根の五ハ黄泉
 の便し於北互ハ肩しこつ小も云末比ハ幣礼亦てたま
 へのあかともてたくハ既小い少くハ幣とたくと
 ちひたゆにのあたゆくのともちやくしこつと幣
 幣行布もくぬのハセとてみよ或人のひくもハ
 ちのりもくちやくと
 ○布施於吉互ハ是ハぬつきていのれハあふじうす元ハ
 生處を正しせよとて世親無着の生々を告げ
 たり云元又ハ佛もや小夢の先けと祈る小や

Handwritten marginal notes on the left side of the page.

